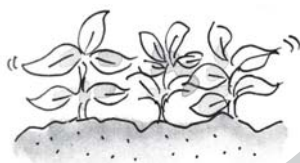


楽しく儲かる農業 のヒント

2016 November Vol. 153
11月号

役に立つ情報満載!
ニュースレター



静岡農業技術支援協同組合 発行

病虫害はなぜ発生する

農閑期を利用して土壌改良すれば
病虫害は大幅に減らせる!

玄米アミノ酸酵素液の使い方

価格の高い年末から正月にかけて
生産ピークを実現する方法!

玄米アミノ酸微生物農法Q&A

たちどころに完売!
農薬も化学肥料も使わないトマト!

高収益農業を実現するには!

液肥は使うほどに病害が発生する!
生長も弱く花芽も少なくなる理由とは…

農業経営者育成塾生のご紹介

独立を決断して二年半の学習の後
資金0で目標達成!



病虫害は
なぜ発生する

農閑期を利用して土壌改良すれば 病虫害は大幅に減らせる！

農業の難しさは単純に収量とか利益を出すということができないことである。例えば目の前で病害にやられた、虫害にやられたとしよう。そうすると、その対策だけで頭がいっぱいになってしまふ。結果まで考えることは出来なくなつてしまふ。欲しい結果が見えなくなるのである。

病害や虫害を完全になくすということではできない。しかし、**収穫に大きな影響を与えないようにすることはできる。**でも、影響を少なくする努力をしなければ、病害や虫害はさらに深刻になっていく。病害や虫害と二口に言っても、ほ場によって千差万別なのである。一つとして同じ状態というものはない。しかも多くの人は自分の畑しか知らないわけだから、どの程度なのか自覚することは難しいの

である。

病害や虫害が発生するというのは土壌がそれだけ荒れている、汚染されているということである。その汚染度と収量利益は深く関係している。汚染がひどいほど、収量も利益も出ない。汚染とは何なのか。**土の酸素欠乏、排水不良、肥料の残留量、悪玉菌の量の四つである。**これを改善できるのは農閑期以外にはない。露地栽培であれば11月〜2月までの4ヶ月間である。

土の汚染というのは一年や二年で出来たものではない。その程度なら土にも自然の浄化力があり解決できる。**何十年もかけて出来たものである。**それがわずかず4ヶ月で改善できるかということである。しかし何らかの対策を打たなければ、来年もまた同じ過ちを繰り返してしまうのである。



今年よりも良くなることはまず

ない。その最大の例は中国である。もう何も栽培できなくなっている農地が続出している。日本だって五十歩百歩であり変わらない。

農業で生計を立てていくと考えるなら、この4ヶ月はもの凄く重要になってくる。**この4ヶ月何をやるのか。土を深く耕して酸素を入れる。酸素を入れることにより、排水も良くなり、悪玉菌も減る。次にぼかしの投入である。乳酸菌もみがらぼかしでも、玄米**

アミノ酸米ぬかぼかしでもいい。

その量というのが問題なのである。通常10アール300kgというのは目安である。土の状態が良ければ100kgでもいい。しかし土の状態が悪ければ600kg必要になる。

状態が良いかどうかは収量で判断する。根菜なら10アール5tは慣行農法の基準である。**玄米アミノ酸微生物農法の一般基準は10アール10t。**



これを目安にして土壌改良する。農閑期の11月〜2月に何をするかで次作が決まるのである。**準備が80%なのだ。**汚染された土壌に何を栽培したとしても良い結果を得るのは難しいのである。

例えば緑肥でも、小麦なら使える。この4ヶ月がとても重要なのである。栽培している最中に目先のことに振り回されない為にも、収量と利益を得るためにも、土壌のケアをしてほしいのである。

玄米アミノ酸 酵素液の使い方

価格の高い年末から正月にかけて

生産ピークを実現する方法！

をしても、何の問題も出ない。葉は必要以上に吸収しないからである。**10アール100Lが目安**。栄養を作るわけだから、もちろん単体で濃度は濃い方がいい。

この時期は年末から年始にかけて生産をピークにしたいと必死になっ

ていることだと思ふ。一年でもっとも需要の高い時だからである。イチゴが分かりやすいと思ふ。

イチゴはクリスマスケーキにも、正月の華やかさにも一役が必要とされる果物である。リンゴでもみかん

でも11月からの年内ギフトが勝負である。他の野菜でも同じ。荷動きがまったく違つのである。**年末・**

年始の価格が良いことなど誰でも知っている。ところが天候によつて大きく違いが出る。これが農業

の泣き所である。暖冬になると出荷が早まり、値崩れ、寒い冬になると作物が育たず

年を越す。価格が高いと分かっているのにどうにもならない。



これはストレスである。多くの生産者はどうにもならないとあきらめて

いることだろうと思ふ。栽培の視点とやり方を変えるだけで**ピンポイントに生産のピークを**

合わせることはできるのである。「そんな馬鹿な…」である。お天気まかせといふのは、実は何の努力も工夫もしていないということ

の証明でもある。植物が栄養を吸収できるのは根と考えているだろうと思ふ。その通りだが、吸収した

栄養は、そのまま栄養にならない。栄養になるには時間がかかる。どれくらい

の時間、どれくらいの量、これは誰も分からない。農業従事者でも、まったく分からない。植

物にはもう一つの栄養を吸収する道具がある。「**葉**」である。「**葉**」で**光合成をして栄養を作る。**

「**葉**」で**栄養を作るのである。**吸収するとは大違いである。栄養を

作るのだから、すぐに栄養になり、生長できる。



どれくらいの時間、どれくらいの量というのも目安がつく。栄養を作るからである。**光合成を活用すれば生産のピークを思い通りに**

合わせることができるといふことなのである。といつても、まったくピンとこないと思ふ。何を言っているか、わけが分からない…。

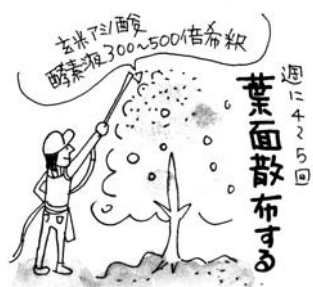
例えば成長の遅い作物があつたとしよう。光合成を活発にするには、**玄米アミノ酸酵素液を300**

倍〜500倍に希釈して、週に4回〜5回、葉面散布する。時間はいつでもいい。冬だから葉が焼ける

こともない。4回〜5回葉面散布

をしても、何の問題も出ない。葉は必要以上に吸収しないからである。**10アール100Lが目安**。栄養を作るわけだから、もちろん単体で濃度は濃い方がいい。

生長が促進されて、時期が早まりそうだと思つたら、**葉面散布の回数を減らせばいい。**また根に与える水分の量は極力少なくする。葉からの光合成を活発にするためである。野菜でも果実でもすべて同じ方法で生産のピークを合わせる



ことができる。このことは根に液肥をやるといふ方法ではできないことなのである。

「**葉**」の**光合成だからできるの**

である。**玄米アミノ酸の葉面散布**

だからできるのである。値が高い時に生産のピークを持つてくるのだから、利益が出るのは当然である。

玄米アミノ酸微生物農法 Q&A

Q たちどころに完売!農薬も化学肥料も使わないトマト!

お陰様でトマトが無事収穫期を迎えました。写真の通り、立派な果実が採れました。複数の方々に味見をしていただいたところ、とても味が濃くて美味しいとの感想でした。ハウスの前の直売所に並べたところ、たちどころに完売、明日の予約をされた方もいるほどです。

農薬や化成肥料は一切使わず、玄米アミノ酸米ぬかぼかしにもみがら燻炭を同量、天然ミネラル鉱石を混ぜて元肥とし、追肥はしていません。ただし、荒れ地を開拓し初めての作物なので、定植前に米ぬかぼかしを10日置きに3回繰り返してすき込みました。定植後は3~4日に一度、玄米アミノ酸酵素液の2000倍希釈液を葉面散布しました。

茨城県T様より



A 玄米アミノ酸酵素液の葉面散布は続けてください! ずっと高品質のトマトが収穫できます。

凄いトマトですね。家庭菜園レベルではとても作れないものです。光合成の結果ですよね。玄米アミノ酸酵素液の葉面散布は続けてください。10月いっぱいまで収穫できます。

高収益農業を実現するには！

液肥は使うほどに病害が発生する！

生長も弱く花芽も少なくなる理由とは…

11月からは冬である。乾燥期に入る。抑制栽培の季節である。施設のハウスであったり、トンネルなどの栽培方法になる。この時期に多用されるのが「液肥」である。液肥は水に溶かして使うものだから使い勝手がいい。しかも使うほど結果が出たような気になる。その時すぐに植物も元気になるからである。液肥には二つの大問題がある。一つは水に薄めて使うため、土壌が水分過多になってしまうのである。液肥には肥料成分が多くある。肥料というのは電気でいえばプラス。これが水分に多く含まれると根が傷む。しかも根は水分を吸い過ぎる。水ぶくれになる。水ぶくれになると寒さに弱くなる。

もう一つの問題は土壌が汚染されて、病害が発生すること。ダニやコナジラミである。寒い時にはダニは分かるが、コナジラミは暑い時の害虫である。いかに栄養過多なのかということである。さらにカビ。これも夏のものである。うどん粉病。これも水分過多が原因で水分が多すぎるのである。日照は弱く、時間も短い。そこに液肥の水分である。しかもハウスやトンネルの中は気温は上がる。これは悪循環になる。特に春になる2月～3月にかけて問題が出てくる。寒くて花芽もつかず、樹勢が悪いからといって、液肥を濃くするのは最悪の対策になるのである。最悪を具体的に言う。収量も伸びず、品質も悪く、お金にならないということなのである。

冬場だから高い値で売れるのもう昔の話である。例えばトマトやキュウリの夏野菜でも冬に高いということは少ない。それだけ施設栽培は数が多くあるということである。夏の物を冬に作るわけだから、暖房などの経費が高み収量も取れない。そこに液肥の肥料過多である。何をやっているのかということになる。利益など出るはずがない。価格が良いのは12月末から正月にかけての一時の話になってしまう。

液肥は水に溶かして使う。根は水分を吸う。根が水分を吸うというのは水分をそのまま吸うのである。当然のように思うかもしれない。葉は水分をそのまま吸うことなどない。吸った水分は葉に蓄えられて、光合成して糖分になってから吸収される。根から吸収する水分は、水分のまま吸収して、茎を通って葉に届く。水分のままというのは寒さ暑さにとっても弱いということである。この簡単なことが分からない人がどれだけ多いことか。



独立を決断して二年半の学習の後 資金0で目標達成！

何かを始める時には、きつかけになる人やきつかけになることというのは必ずあるものである。農業経営者育成塾を始めるきつかけとなったのは「荒巻泰輔」さんである。最初の塾生でもある。私が特に選んだというわけではない。自然にそうなったのである。

最初に出会ったのは、荒巻さんが会社勤めていた頃である。私を目的の地まで送ってくれる仕事だった。その車中で、いきなり私に唐突な質問をしてきた。今は勤めているが、将来は農業で独立したいというのである。余裕のあるやりとりではなく、思いつめたような重い空気だった。一瞬、今の職場か、または仕事が嫌なのだろうかなど直感した。そのために、私に教えて欲しいというのである。

その頃、私は育成塾を立ち上げようと考えていたので、その参考になればという軽い気持ちで受けてしまった。現在なら受けていないだろうと思う。育成塾を立ち上げる時だからこそ受けたのだ。人の縁というのは瞬間で決まる。もし、このタイミングでな

かったら縁があったかどうか…。荒巻さんは私の講演を聞いていて「この人」と思ったらしい。自分の気持ちが変わるまで食らいつくという覚悟だったような気がする。

その出会いから二年半が経過して独立をした。二年半、ずっと教えた。農業の栽培だけはでなく経営まで教えた。荒巻さんにしてみれば聞くことすべてが初めてのことである。しかも勉強は大嫌い、体育会系だから頭よりも先に体が動いてしまうのである。



しかし荒巻さんは他の人にならない大きな特長があった。自分が信頼したことについては素直に真っ直ぐだったのである。独立したいという一心で熱心に勉強した。勉強といっても知識ではない。実学である。すぐに役に立つ学習である。それが面白かったのだらうと思う。驚くほどに考える力がついて変化していった。一年が経った頃にはまるで別人である。これには教えた私の方がびっくりである。ここまで人間

は変われるのか。中高年という年齢を考えれば尚更である。それまでギクシャクの多かった人間関係もうまいくようになった。

しかし学習ができて、人間関係がうまくいったとしても独立ができるわけではない。資金が必要なのだ。もちろん事業のお金は文無しである。生活に困るということはないが、事業資金のあてなどまったくない。にもかかわらず独立である。どうするのだろうか。

農地もなければ農機具もない。種代すらない。この状態で独立は無理である。ここでも人に好かれる素直な人柄が生きた。なんと仲間三人と2町歩からの出発ができたのである。まるでアニメの世界である。アンビリバブルである。決断力とかミッションがいかに大切かを再度、教えられた気がした。この話はこれで終わらない。続きは当然ある。独立した後どうなったのか。とても興味があると思う。次号ではないが、それもお伝えをする予定でいる。

荒巻泰輔様
福岡県福岡市
南区老司5丁目24-16
TEL
080-5264-2247



結果がイマイチという方。
迷わず電話かFAX下さい。

TEL 0120-870-441 FAX 0120-870-442

(受付時間 月～金(9:00～18:00) 土・日・祝・年末年始(休業))

静岡農業技術支援協同組合

〒422-8034 静岡県静岡市駿河区高松2-15-26

TEL.054-237-3333 FAX.054-237-4021

24時間
FAX受付中